

横浜能楽堂 令和3年度指定管理業務評価（外部評価）

	張委員	諸貫委員	横山 太郎委員	横山 直子委員
I 施設管理	<p>【評価する点】 全体的には目標通りに実施し、達成しています。その実行力は評価に値します。 また、施設利用者の体調不良といった突発事件への対応もそつなくこなしていることから、日ごろの情報共有と職員の連携の良さをうかがえます。ぜひ持続していただきたいです。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 大規模修繕を実施する予定で、新生能楽堂を楽しみにしています。</p>	<p>【評価する点】 施設・設備の維持管理について、遺漏なく業務がなされていることを確認しました。また、防災の取組及び感染症への対策が行われていることも確認しました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】 施設管理目標が、いずれに項目においても堅実に達成されている。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】 コロナ禍の厳しい状況の中で、持続的に安定した維持保全がなされている点、利用者の感染症対策にかかる設備更新等に取組まれている点を評価します。 これらの取組みが奏功し、目標を上回る快適評価のポイントを維持されているものと拝察します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 短期的には、予防保全の視点や大規模改修の時期を勘案し、適切に取捨選択しながら小破修繕等に対応すること、中長期的には、大規模修繕にあたり、これまでの施設管理の実績が活かされ、反映されることが望ましいと考えます。</p>
II 施設運営	<p>【評価する点】 コロナがまだ完全に収束していない中、教育機関、旅行会社への販促活動、貸館の利用促進や電子チケットの販売による利用便利度の向上など、創意工夫で利用者の呼び込みを行っている姿勢と熱意に非常に好感を持てます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 対面の物販はできませんが、ネットでの販売を進めてはいかがでしょうか。</p>	<p>【評価する点】 コロナ禍により残念ながら利用料金収入は目標に達しなかったですが、利用率が回復傾向にあったことは評価できます。 WEB で施設の空き状況が確認できるよう準備されたことを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 貸館であった「能楽キャラバン」のような他団体と協働する事業が増えることを期待します。 撮影や配信について、需要が継続してあるようなら設備の整備をご検討ください。</p>	<p>【評価する点】 コロナ禍の厳しい状況の中で、施設予約システムの準備、利用プランの広報など、施設利用を促進するための努力が認められた。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 広報のアプローチがうまくいった場合とそうでない場合について、分析と評価を示してもらいたい。</p>	<p>【評価する点】 コロナ禍において利用者の安全確保を優先した運営施策を講じながら、利用率の目標を達成し、新規利用開拓や利用者ニーズを見通した先行的な投資等に着手されている点を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 稽古、撮影等を含む新規利用開拓については、利用者が求める情報・ニーズを把握しながら、現状の運用ツールを活かし、継続的に発信することが肝要と考えます。</p>
III 文化事業①	<p>【評価する点】 解説が分かりやすかったり、格好が良かったり、古典芸能に触れられ感激であったりといったアンケートのコメントを読むと、職員皆様の努力は、利用者に伝わっていると感じました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 小中高生へのアプローチに集中しているように見受けられます。日本文化などを専攻している大学生へのアプローチも考えてはいかがでしょうか</p>	<p>【評価する点】 観客育成や普及の取組を継続して行っていることを評価します。 動画配信も利用して積極的にバリアフリー能の可能性を広げていることを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 座席数の制限がなくなった後に、コロナ以前の集客ができるよう広報の工夫を期待します。</p>	<p>【評価する点】 狂言を中心に、「小学生、保護者、教員」という潜在的な新規愛好者層を、公演事業・普及事業・教育事業のサイクルのなかに取り込むことができつつある。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 上記のサイクルをさらに強力なものにしていくことが期待される（例えば、「先生のための狂言講座」に参加した教員を窓口到学校プログラムを拡大し、さらに当該学校が窓口となって児童とその保護者に能楽公演や講座を案内する、等）。</p>	<p>【評価する点】 アンケートの回答からも、主催事業はニーズを的確に捉えた企画となっており、このような事業展開で目標を超える水準の平均券売率の達成に繋がったものと評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 次世代育成やすそ野拡大に繋がる魅力的な事業を実践されていることから、将来的に期待される効果およびその評価について、今後、市を中心として、検討に着手されることを期待します。</p>

横浜能楽堂 令和3年度指定管理業務評価（外部評価）

	張委員	諸貫委員	横山 太郎委員	横山 直子委員
Ⅲ 文化事業 ②	<p>【評価する点】 能・狂言の全演目に英語解説を付けたり、英語版インターネットでチケットを販売したり、企業へのオンライン能楽講座を実施したりといった新規利用者を開拓する努力は評価に値します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 英語以外の言葉（来館可能性の高い国を調査した上で、絞る）での解説などもあればと思っています。また、最近、会社で外国籍の従業員が増えています。こういった企業に声掛けして、福利厚生などの一環として講座の提供であったり、チケットを販売したりするのもいいかもしれません。</p>	<p>【評価する点】 和のワークショップ、施設見学会を積極的に行っていることを評価します。 公演アーカイブを充実させていることを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】 多彩な文化体験プログラム、講座、地域連携の試みが積極的に実施されていることによって、文化的な熱を帯びた空間となりつつある。単なる能楽の公演会場としてだけではなく、横浜能楽堂という場所の魅力を発信することにつながっている。ウェブにおける公演アーカイブの公開やその他のコンテンツの充実も高く評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 インターネット環境は日進月歩なので、ウェブサイトやSNS については利用者のニーズに応えたシステムとインターフェイスの改善に取り組んでほしい（財団全体で）。</p>	<p>【評価する点】 体験プログラムやワークショップ等、ニーズに対応する質の高い企画を展開している点、多言語対応に取り組んでいる点等は、能楽堂の魅力発信に貢献していると評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 広報については、適切な情報発信のタイミング、各広報ツール間における発信情報の棲み分け、来館・レポートに結び付くインセンティブ付与の余地等、各運用ツールの特性を踏まえた展開に期待します。</p>
Ⅳ 収支	<p>【評価する点】 限られた予算で創意工夫して確実に目標に沿って実行するという堅実なマネジメントを高く評価いたします。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 開源節流のうち、節流については目標以上の成果を出していますが、開源については、まだ努力する余地はありますが、コロナの影響を考えたら、健闘していると思います。</p>	<p>【評価する点】 外部資金の獲得、効率的な運営によって収支バランスがとれたことを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】 困難な状況下で、協賛金を獲得した。チケット等の支払い方法を拡充した。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 今回、物販とチケット代金の現金以外の支払い方法を拡充したが、さらなる改良（会員登録不要化、チケット委託販売等）は、将来の集客増・収入増につながる可能性があるのではないかと。</p>	<p>【評価する点】 コロナ禍での厳しい経営環境におけるコスト抑制の取組み、利用料金収入の回復（前年度比）、助成金や協賛金等、目標を超える資金調達を達成した点を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>
その他				
総括	<p>施設の管理・運営と文化事業のマネジメントは、全体通じて予算内でバランス良く実施できていると思っています。今後、with コロナを見据えて、いま何をできるか、その準備を進めていただければと思います。</p>	<p>うち続くコロナ禍の厳しい局面においても、地道な文化事業、施設の維持管理を継続していることを評価します。 コロナ後を見据え、施設利用の向上、観客層の拡大、オンラインの活用等に努めることを期待します。</p>	<p>前年度からコロナ禍が続くなかで、何が可能なのかを真摯に探りながら、各種事業を適切に実施した。市民活動や観光などが回復した暁に利用が増えるよう、飛躍のための基礎固めに引き続き取り組んでいただきたい。</p>	<p>予断を許さぬコロナ禍の情勢に対し、柔軟に策を講じて善処するなど、事業へのベストエフォートでの取組姿勢を評価します。このような厳しい局面において、利用者ニーズに対応する安定した事業を実施されていること、新規利用開拓等、改善に向けた新たな取組を実施されていること等が、今後の利用状況の回復に繋がるものと期待します。</p>

令和3年度 横浜能楽堂 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価	
I 施設管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
1 施設及び設備の維持保全及び管理	1文化財(能舞台)の適切な保護 2中長期的な視点による総合的な施設(建築物)、建築設備、舞台設備、備品等の保守管理の遂行 3清掃、廃棄物処理及び環境への配慮等、植栽管理業務等の環境維持管理業務の実施 4駐車場管理業務の実施	■日々の手入れと点検を実施し、必要に応じて専門業者による管理・メンテナンスを実施	実施	実施	-	業務の基準に則り適切に管理しました。	【成果】 業務の基準に従い、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置期間中も含めて日々の保守管理、維持保全を適切に実行しました。植栽管理については台湾リス獣害対策・建物保全の観点から高木剪定を実施しました。 【課題】 引き続きトイレの更新(洗浄機能の具備)を希望するご意見が多数寄せられました。来館者/出演者/施設利用者共通のニーズであり、今後の顧客サービス改善の優先度としては上位の課題と考えています。 【更なる取組を期待する点】 ・施設の劣化状況等、引き続き日常的な監視を適切かつ確実に実施していただくとともに、令和6年1月からの大規模改修を見据え、小破修繕について時期や必要性の細かな検討を進めてください。 ・アンケートによる来場者の方の御意見等については、モニタリングの機会等を利用し、当該とのきめ細やかな情報共有を引き続き求めます。
		■職員/施設管理委託者による毎日の巡回と目視点検により不具合の早期発見に努め	実施	実施	-	定期点検、日常目視点検等により施設の状況把握を適切に行いました。	
		■施設利用後の速やかな点検の実施	実施	実施	-	職員点検後に警備員が最終巡回を行い、施錠等安全確認を徹底しました。	
		■台風・大雨後の事前準備対策の強化	実施	実施	-	事前情報を収集し、対策に当たりました。	
		■台風・大雨後の巡回点検強化	実施	実施	-	速やかに点検し、状況を市に報告しました。	
		□建物設備管理に起因する過失事故0件	0件	0件	B	過失事故はありませんでした。	
		□アンケートでの快適評価	4	平均4.37	B	公演系事業の数値です。	
		□環境維持管理に起因する過失事故0件	0件	0件	B	過失事故はありませんでした。	
		□駐車場の保守点検	年2回以上	年2回実施	B	9/14,3/25実施	
		□駐車場および車両に起因する過失事故0件	0件	0件	B	過失事故はありませんでした。	
□備品(収蔵庫)管理 害虫駆除	年2回以上	年2回実施	B	6/7,12/13実施			
□植栽管理	年2回以上	年6回実施	A	6/22、7/15-7/26、9/29-10/4、11/15-11/19、1/13(松の雪吊り)、1/20-1/26 計6回実施。			
2 小破修繕への取組	1日常の管理・毎月の点検における不具合・不調箇所を発見し、早期の小破修繕等の対応 2利用者の安全に関わる事案への最優先対応 3不具合箇所等の市への報告による情報共有の実施	■日常の巡回点検、毎月実施する定期点検の中で不具合・不調箇所の早期に発見に努め、部品交換や小破修繕の実施	実施	実施	-	業務の基準に則り適切に管理しました。	
		■故障、不具合については速やかに市と共有	実施	実施	-	必要に応じて適切に報告しました。	
		■問題箇所は、指定管理者本部施設管理チームからの助言をもらい対応	実施	実施	-	必要に応じて適切に連携しました。	
		■修繕を検討すべき不調箇所はモニタリングを通じて市と情報共有	実施	実施	-	モニタリング等を通じて速やかに市と情報を共有しました。	
3 事故防止体制・緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理	1各種事故等対応マニュアルの運用、整備 2事故防止策、緊急時(防犯)対応 3感染症対策等衛生管理の方針の策定 4緊急時の連絡体制、防災に対する取組	■利用者の安全に関わる事案については、随時市に報告し対応を協議	実施	未実施	-	直接利用者の安全に関わるような事案は発生しませんでした。	
		■各種マニュアルを整備し備え置き	実施	実施	-	適切に実施しました。	
		■職員、補助職員、委託業者(清掃員)による施設内巡回等による速やかな対応	実施	実施	-	適切に実施しました。	
		■緊急連絡網を作成し連絡体制を構築	実施	実施	-	適切に実施しました。	
4 防災に対する取組	1各危機管理マニュアルの整備及びそれに基づく訓練の実施 2消防訓練(年2回実施) 3指定管理者本部からの情報提供 4外国人来場者への案内 5延命講習の受講 6汚物処理研修 7救急時の医療機関への搬送	■新型コロナウイルス感染症に関する状況の変化に応じて市と連携して対応	実施	実施	-	適切に実施しました。	
		□消防訓練(来館者・外国人・障がい者の避難誘導訓練を含む)	年2回	年2回	B	7/12、1/17実施。	
		□消防設備の取扱研修	年2回	年2回	B	火災を想定した消火・避難誘導・非常放送・通報及び消火器/消火栓の取扱研修を実施しました。	
		■より実際に則した状況での消防訓練	実施	実施	-		
		□普通救命講習1を全職員が受講済とする	全職員の実施	全職員の実施	B	配置職員は研修済です。	
		□ノロウイルス等対応研修	年1回	年1回	B	1/14実施	
		■救急時は救急医療機関を紹介、搬送の手配、事務室及びチケットブースで近隣の診療所や救急相談センターの情報等を共有	実施	実施	-	救急搬送が1件発生しました(第二舞台利用者)。救急車の手配、搬送立会・調整等、適切に対応しました。	

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
1 能楽等の公演、稽古、創作その他の活動のための施設の提供	1 適切な施設の提供、運用	■開館時間 午前9時～午後10時	実施	実施	-	適切に実施しました。	【成果】 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からまん延等防止重点措置期間中は利用者に施設利用20時終了の協力要請を実施しました。 【課題】
		■受付・チケット販売 午前9時～午後6時	実施	実施	-	適切に実施しました。	
		■貸館受付 午前9時～午後8時	実施	実施	-	適切に実施しました。	
		■利用料金の設定: 現行の利用料金体系を継続。教育機関の貸館利用については半額減免制度	実施	実施	-	適切に実施しました。	
	2 貸館の利用率が高まる工夫による施設の利用促進	■古典芸能鑑賞会、施設見学会等について学校や旅行代理店にプランを提案	実施	実施	-	修学旅行等を取り扱う旅行代理店教育旅行部門116か所に、「横浜能楽堂 能楽体験・鑑賞会のご提案」資料を送付しました。	【成果】 ユニークベニューやMICE利用は引き合いはあったものの実績にはつながりませんでした。旅行代理店からの修学旅行の問い合わせに対し、修学旅行プログラムのパッケージプランを提案できました。 【課題】 国際会議等のオンライン化が進んでおり、外国人を交えたユニークベニューニーズが減少しています。身近なエリアでの活動を視野に入れたプログラム提案が必要です。
		□アプローチ件数	15件	11件	C	問合せに対し、パーティー利用等の資料を送付しました。	
		□商談件数	2件	7件	A	パーティー、表彰式、講演会等の利用について商談しました。	
	3 新規の利用者を増やすための工夫	■利用案内のDMを送付し貸館を周知 令和3年度 利用案内DM送付件数	実施	実施	-		【成果】 初めての朝割3件3回、初めてのU25割3件3回、応援割10件11回の利用がありました。本舞台を1時間から稽古で利用できる「いつでも本舞台でお稽古」の利用実績1件。 【課題】 新規利用増加を目指し、広報先の再検討や拡充が必要です。
		□近隣住民	年2回	年13回	A	近隣3軒のマンションへ公演やオープンデー等のチラシ積み置きや掲示を依頼しました。	
		□友の会会員	700件	600件	C	割引制度、本舞台の1時間単位利用について案内しました。	
		□学校等古典芸能関連サークル	10件	Twitter 1回 facebook 1回	C	大学能楽サークル等対象にTwitter、facebookに「初めてのU25割」紹介記事を投稿しました。	
	4 指定期間における利用料金収入、利用率の考え方、利用率の達成	■初めて割の朝割、初めてのU25割、応援割の実施	実施	実施	-	「橋がかり」への掲載、チラシ配布、web掲載等により周知しました。応援割: 10件/11回、朝割: 3件/3回、U25割: 3件/3回	【成果】 新型コロナウイルス感染症拡大への懸念を理由とした利用控え・キャンセルの他、利用団体の減少があり、利用率と利用料金収入が目標値に届きませんでした。利用率は昨年度から回復の兆しがあり、各種新規割引プラン等が効果を奏したと考えられます。 【課題】 引き続き感染症対策を行いながらの利用率維持が課題です。
		□令和2年度 利用料金収入	148,000千円	12,843千円	-		
		□令和2年度 施設目標利用率	35%	35%	B		
		□本舞台(日)	(平成33年度50%)	35%	B		
		□第二舞台(日)	46%	53%	A		
		□研修室1・2	30%	32%	B		
	5 貸館、舞台の適切な運営体制の整備	□研修室3・4	30%	34%	A		【成果】 新型コロナウイルス感染症拡大への懸念を理由とした利用控え・キャンセルの他、利用団体の減少があり、利用率と利用料金収入が目標値に届きませんでした。利用率は昨年度から回復の兆しがあり、各種新規割引プラン等が効果を奏したと考えられます。 【課題】 引き続き感染症対策を行いながらの利用率維持が課題です。
		(参考)施設利用者数	-	37,418名			
		□開館時の運営体制: 1階 補助職員	2名以上	2名以上	B	計画どおり配置しました。	
		□開館時の運営体制: 事務室 職員	1名～3名以上	1名～3名以上	B	早番2名、遅番2名を基本人数として、利用内容を踏まえ、適切な配置をしました。	
		□本舞台利用時の運営体制: 舞台技術者による対応	1名以上	1名以上	B	利用者の要望に応じ、申合せ・リハーサル時も配置しました。	
		■本舞台における公演・発表会の開催時の運営体制: 補助職員	1名～4名増員	1名～4名増員	B	公演内容を踏まえ、適切な人数を配置しました。	
		■事務室の職員全員が貸館に対応できるよう、マニュアルを整備	実施	実施	-	適切に実施しました。	
■貸館の手引きを備え置きし、利用者に施設利用に関する情報をわかりやすく伝える		実施	実施	-	適切に実施しました。		
■スタッフのノウハウを活用した『利用者サポート』(公演事前準備支援、公演等制作支援、稽古場探し支援)を実施		実施	実施	-	ウイルス対応のノウハウ提供や、ニーズに応じた施設紹介を実施しました。		
■能楽以外の利用について能舞台固有の利用制約についての相談・サポート		実施	実施	-	第二舞台での能楽以外のワークショップ、発表会利用があり、利用についての相談・サポートを行いました。		
6 要望・苦情への対応、職員における共有	■毎月発行の催し物案内広報物「橋がかり」へ本舞台・第二舞台の公演・発表会等の情報を掲載し、貸館催事の広報に協力	実施	実施	-	毎号の「橋がかり」に貸館催事を掲載しました。	【成果】 目標どおり実施しました。お客様からのご意見については月例の職員全体会議で共有し、以後の運営に反映させています。 【課題】 接触回避の観点から、紙でのアンケートの積極的な呼びかけを控えています。これを補完する仕組みの検討を検討します。	
	■公演ごとに実施するアンケートを分析し、お客様の要望・苦情を把握し対応	実施	実施	-	アンケート結果について全職員で回覧し、利用者来館者のニーズ共有に努めています。		
	■アンケート回収率を上げる工夫	実施	実施	-	オンラインによるアンケート回答を開始しました。		
	□アンケート回収率	15.0%	平均14.2%	B	公演系事業の回収率です。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からアンケートの積極的な回収呼びかけを控えました。		
	■必要に応じ財団事務局、横浜市と情報共有	実施	実施	-	適切に実施しました		
	■クレームについてレポートを作成し職員間で共有	実施	実施	-	ご意見について、職員全体会議で共有し対応改善に取り組みしました。		

2 利用促進及びサービスの向上	7 各貸出施設の利用促進に対する取組み及びプロモーション	■各室について稽古利用ができることをSNS やちらして周知 利用案内DM 送付件数【再掲】	実施	実施	-		【成果】 利用促進のため、ホームページ、チラシ、「橋がかり」掲載を活用し、周知に努めました。「初めてのU25割」紹介記事をSNSに投稿したところ、Twitterでは16件のリツイートと23件のいいねの反応がありました。 【課題】 新規利用の拡大に向け、広報媒体や利用内容の検討が必要と考えます。
		□近隣住民	年2回	年13回	A	近隣3軒のマンションへ公演やオープンデー等のチラシ積み置きや掲示を依頼しました。【再掲】	
		□横浜能楽堂友の会会員	700件	600件	C	割引制度、本舞台の1時間単位利用について案内しました。【再掲】	
		□学校等古典芸能関連サークル	10件	Twitter 1回 facebook 1回	C	大学能楽サークル等対象にTwitter、facebookに「初めてのU25割」紹介記事を投稿しました。【再掲】	
		■ツイッターやWEBページを活用し貸館情報、利用紹介や案内を告知	実施	実施	-	大学能楽サークル等対象にTwitter、facebookに「初めてのU25割」紹介記事を投稿しました。	
		■本舞台の1時間単位での貸出のPR	実施	実施	-	本舞台の1時間単位利用についての「いつでも本舞台でお稽古」チラシを施設向けに発送し、橋がかり7月号に情報掲載しました。	
		■WEBページでの施設空き状況の情報提供の検討	実施	実施	-	令和4年4月より第二舞台、楽屋、研修室の空き状況をWEBで確認できる運用を開始できるよう準備しました。	
		■撮影利用、アフターコンベンション等の利用希望への積極的な対応	実施	実施	-	撮影利用について13件の引き合いがあり、うち12件の利用がありました。ほか各種利用相談に対応しました。	
	8 お客様からの意見箱の設置及び対応によるサービスの向上	意見箱の設置					【成果】 目標どおり設置、回収件数3件でした。 【課題】 寄せられた要望に対しての回答・対応方法を検討します。
		□ロビー	1か所	1か所	B	1件「ビデオを見られるようにしてください」 2件「靴べらのご用意をお願いいたします」 「近くに自動販売機を付けてほしい」	
		□楽屋	1か所	1か所	B		
9 物販サービスの実施	■新型コロナウイルス感染拡大防止上問題が無い場合に本舞台利用時にショップを営業	実施		-	一部の見学会等を除き営業を休止しました。	【成果】 昨年度取扱いを開始したビニール傘が好評でした。 【課題】 感染拡大防止の観点から、チケットもぎり付近の列整理のため、一部の見学会を除き営業を休止しました。入退場の人流に影響を与えない形での営業形態を検討します。	
	□オリジナル生落雁「鏡板」について季節や催しに合わせた特別バージョンの販売	年2回以上		-	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から販売を中止しました。		
	■物販・チケット支払にクレジットカード・電子マネーの取扱い実施	実施	実施	-	適切に実施しました。		
10 来館者及び外国人観光客に向けたWi-Fi 用アクセスポイントの設置	フリーWi-Fi の提供					【成果】 目標どおり設置、運用しました。 【課題】 引き続き安定した提供を継続します。	
	□ロビー・展示廊エリア 常時提供	1台	1台	B	適切に提供しました。		
3 組織的な施設運営の取組、職員の確保・職能、配置及び育成	11 1明確な責任体制の構築、勤務シフトの設定 2適切な休館日の設定 3専門性人材の安定的確保と能力向上に対する方策の実施 4求める役割を果たす責任者・職員の配置 5各研修の実施	■来館促進等チームリーダーが貸館と施設広報を担い、利用率達成を目指す	実施	実施	-	適切に実施しました。	【成果】 前年に引き続き「支配人によるマネジメント」と「芸術監督による企画監督」という体制で引き続き運営しました。コロナ禍により様々な運営上の制約が加わる中で、職員勤務時間の調整、カルチャースタッフ(補助職員)の配置の適正化など、安心してご利用いただける施設運営と総人件費の抑制の両立を目指して運営を行いました。専門人材の育成のため、3職員を財団で実施する専門職員研修に参加させ、企画制作担当職員の能力向上に寄与しました。 【課題】 長期的な視野での専門職員の継続的な確保をどのように行っていくかについて、財団事務局とともに取り組んでいく必要があります。
		■プロデューサーとなる企画制作担当職員は、先輩後輩のペア制をとりOJTを実施	実施	実施	-	適切に実施しました。	
		■支配人:1,芸術監督:1,管理運営TL:1,来館促進等TL:1,職員:6(企画制作4うち経理1兼務,広報営業1,施設管理1) 補助職員:14	配置	配置	-	(実配置) 芸術監督(常勤):1名 支配人(グループ長):1名 管理運営チームリーダー:1名 来館促進等チームリーダー(貸館営業/広報担当):1名 職員:7名(企画制作4名、商務経理1名、広報営業1名、施設管理1名) 補助職員:14名	
		□開館日数	335日	335日	B	月2回施設点検、年末年始6日間を除く335日開館しました。	
		□施設点検のための休館日	年間30日	年間30日	B	計画どおり実施しました。	
		■ローテーションでの勤務(芸術監督除く)	実施	実施	-		
		■主催事業や貸館内容に応じて勤務体制を調整し、柔軟に対応	実施	実施	-		
		□バリアフリー研修	1回	1回	B	3/2に実施しました。	
		■公文協・劇音協ほか外部セミナーの受講を推奨し、専門知識の習得に努める	実施	実施	-	「感染症対策」セミナーを受講(2名)し、施設運営上必要な対応の検討の参考としました。	
		■財団主催研修・横浜市研修へ職員を参加させ資質向上およびスキルアップをはかる	実施	実施	-	対面型研修が困難な状況ではありましたが、財団内部研修には積極的に職員を参加させました。	
		■他都市の公演視察により職員の企画・運営能力向上をはかる	実施	実施	-	国内各所の能楽堂や文化施設の事業を積極的に視察しました。	
11 □調査研究のための出張	□国内	1か所	1か所	-	感染症拡大防止策の観点から実施しませんでした。		
	□海外	1か所	1か所	-			
	■個人情報取扱マニュアルに則り適切に対応	実施	実施	-	適切に対応しました。		
	□個人情報取扱い研修	年1回	年1回	B	適切に実施しました。		
4 本市の重要施策を踏まえた取組	12 1個人情報保護 2コンプライアンスの遵守 3適正な情報公開 4人権尊重 5環境への配慮 6市内中小企業優先発注 7男女共同参画の推進	■コンプライアンス委員会での情報共有	実施	実施	-	適切に実施しました。	【成果】 日常業務を通じて、職員間のダブルチェックやコンプライアンス事例の共有等、問題発生の事前抑制、また職員の意識向上に努めました。夜間利用の制限等不規則な運営となる中で職員の配置時間を柔軟に調整しより丁寧な利用者対応と業務効率の改善に繋がりました。 【課題】 引き続き確実に実施します。
	■印刷物を中心にダブルチェックの徹底	実施	実施	-	適切に実施しました。		
	□全職員対象コンプライアンス研修	年1回	年1回	B	適切に実施しました。		
	□横浜市主催人権研修に職員参加	年1回	年1回	B	参加しました。		
	■省エネルギー・節電・ごみ減量に取組む	実施	実施	-	ごみ処理について適正化しました。		
	□市内中小企業への優先発注	全発注の9割以上	全発注の9割以上	B	適切に実施しました。		
	■超勤抑制/有休の適切な取得に努める	実施	実施	-	適切に実施しました(年間実績月平均9.8時間/人)		

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ文化事業目標1	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価	
1 能楽等の継承・振興・発展に向けた次世代育成、愛好者の拡大	1 能楽等の古典芸能の継承、振興や発展に向けた公演、講座・ワークショップの実施	普及公演「横浜狂言堂」	毎月第2日曜日 全12回	全12回開催			【成果】 昨年度は感染症対策のため3公演が中止となりましたが、今年度は適切に感染症対策を行い全12回を開催しました。客足はコロナ禍以前に比べるとまだ回復していませんが、アンケートによるとリピーターから新規来場者まで、幅広い層から好評の声が寄せられており、幅広い層に狂言の魅力伝える機会を提供することができました。 【課題】 感染症の状況が少しずつ改善してきて、客足は戻らない状況が続いています。コロナ禍でも劇場に足を運びたいという客層に情報を確実に届けられるよう、広報の工夫を検討します。	【評価できる点】 ・新型コロナウイルスの影響により座席数の制限はあったものの、魅力的な企画が高い券倍率に繋がっていることを評価します。
		□券売率 実売数/販売席数	70%	82%	-		・「横浜狂言堂」は解説や安価な料金設定で、能楽未経験の方が参加しやすい工夫がされており、リピーターから新規来場者まで、幅広い層から好評を得ていることを確認しました。	
		□入場者数	340人/回 4,080人/通年	302人/回 3,626人/通年	-		・「バリアフリー能」は来場された方へのサポートの幅が広がり、来場が難しい方にも動画配信等で能楽に触れる機会を創出など、あらゆる人に能楽の楽しさを届ける取組を積極的に行っていることを評価します。	
	2 「クリエイティブ・インクルージョン」の趣旨を踏まえた、人種・国籍・宗教・障害の有無・性別・性的指向・年齢等に関係なくすべての人が参加できるとともに、ユニバーサル対応に向けた様々なサポート体制を整えた公演及び体験講座等の実施	普及公演「バリアフリー能」	3月19日	3月19日				
		□券売率 実売数/販売席数	30%	68%	-		感染症対策ため販売座席数を半分にしました。	・「こども狂言堂」「こども狂言ワークショップ」「横浜市芸術教育プラットフォーム」では、本物の能楽に触れることで、子供たちの豊かな創造性や感受性を育む次世代育成の取組を確認しました。
		□入場者数(介助者を除く)	144人	149人	-			また、能楽ファンの裾野を広げ、未来の能楽関係者、愛好家に繋がる取組を確認しました。
		□視覚障がい者・聴覚障がい者・知的障がい者向け事前見学会開催	各2回	2回	B		対象を区分せず2回実施しました。	・「先生のための狂言講座」では、目標の4倍近い参加者が集まり、教員等からのニーズが高い取組であることを確認しました。
	3 「クリエイティブ・チルドレン」の考え方に基づく、次代を担う子どもたち、その保護者、教育関係者等を対象とした施設内での能楽等の学習・体験機会、古典芸能に触れるきっかけの提供	普及公演「横浜狂言堂」(こども狂言堂)	8月1日	8月1日				
		□券売率 実売数/販売席数	70%	90%	A			・企画・特別・普及公演については、横浜能楽堂ならではの企画、独自の視点であることや、人間国宝の出演により、能楽ファンから注目を集め、高い券倍率に繋がったことを評価します。
		□入場者数	340人	362人	B			【成果】 人間国宝・山本東次郎によるお話が分かりやすい内容で初めて狂言を観る子どもたちからも好評でした。教員向け講座は、目標を大きく上回る参加があり、質疑応答では多くの質問が上がるなど、狂言に対する興味と理解を、より深めていただきました。
		■こども料金1人500円を設定	実施	実施	-			【課題】 鑑賞サポートの種類を増やすだけでなく、質の見直しやアップデートにも気を配っていききたいと思います。
		特別講座「先生のための狂言講座」	8月1日	8月1日				【成果】 教員向け講座後に予定していた能楽堂施設見学は、希望者が予定を大きく上回ったことや感染症対策のために、見所でのお話のみで、楽屋見学を中止しました。定員の設定するなど、実施のためのルール作りを行います。
		□参加者数(教員および教職課程学生対象)	50人以上	196人	A			【課題】 教員向け講座後に予定していた能楽堂施設見学は、希望者が予定を大きく上回ったことや感染症対策のために、見所でのお話のみで、楽屋見学を中止しました。定員の設定するなど、実施のためのルール作りを行います。
	4 子どもたちの感性、創造性を育み、意欲を発展させることのできるプログラムや継続性のある事業の実施	こども狂言ワークショップ 入門編	8月3日間	8月3日間	B		8/3,4,5 全3日	
		□参加者数(小・中学生対象)	20人以上	26名	A			【成果】 コロナ禍でイベントの中止が相次ぐ中、子どもたちの学びの機会を得られたことで、保護者の方たちの満足度も高い事業となりました。卒業編では、歴史ある横浜能楽堂の舞台で本格的な装束で成果を発表することにより、子どもたちに大きな経験と成長の場を提供できました。感染症対策のため、会場を変更の上、密回避のためグループ分け等進行の工夫を行い保護者からは安心して参加できましたとの声をいただきました。
こども狂言ワークショップ 卒業編		1-3月、10日間	1-3月、10日間	B			1/11、18、28、2/3、16、25、3/4、11、16、24 全10日	・「バリアフリー能」について、様々な取組を引き続き行い、あらゆる人が能楽を楽しめる環境を整え、積極的に情報を発信し、より多くの方の参加に向けた取組を期待します。
□参加者数(入門編の参加者対象)		5人	12人	A				・多くの子供たちに対し、横浜能楽堂の認知度向上や能楽を中心とした古典芸能へ関心を持つ機会提供に向けて、引き続き、取り組むことを期待します。また、その子供たちが家族を連れて能楽堂を再び訪れるような取組も期待します。
「横浜こども狂言会」		3月下旬	3月26日					・公共の能楽堂として能楽等の古典芸能の振興を行うにあたり、引き続き、流派等のバランスをとった上で、多様な演じ手や作り手等の積極的な登用を求めます。
□こども狂言WS卒業編からの参加者数		5人	12人	A				・ワークショップや講座に参加した能楽初心者、能楽愛好者となるような取組を求めます。
□OB・OG組織「いろはの会」の参加者数を含めた参加者数		15名以上	29人	A				
□入場者数	100人	145人	A					
5 市内の子どもたちに対して文化芸術に触れる機会を提供するため、「横浜市芸術教育プラットフォーム」にコーディネーターとして参画し学校プログラムを実施	□「横浜市芸術教育プラットフォーム」学校プログラム狂言・古典芸能を軸にコーディネートを行う	5校実施	5校実施	B		狂言：横浜市立さしが丘小学校、横浜市立嶮山小学校、横浜市立並木中央小学校 箏：横浜市立みなとみらい本町小学校、横浜市立幸ヶ谷小学校		
							【成果】 3校には狂言大蔵流山本東次郎家をコーディネートし、小学校の教科書に掲載されている狂言「柿山伏」鑑賞を中心にプログラムを提供、2校には奥田雅楽之をコーディネートし、箏の講義・体験のプログラムを提供しました。感染症対策を徹底した上で、安全に実施することができました。 【課題】 今後も担当教諭と連携して、児童数や授業の進捗状況、児童の特質等、各校の状況に応じたプログラムを実施します。	
6 能楽等の次世代の育成に向けて、若手の演じ手や公演等の作り手の積極的な登用	■通常の公演企画を通じて実力ある若手の演じ手を起用	実施	実施	-		延べ12名 特別公演、普及公演、「眠くならずに楽しめる能の名曲」等で若手の演じ手を起用しました。		
							【成果】 積極的に起用し、若手の育成を図りました。 【課題】 今後も普及公演をはじめとした公演で実力のある若手を起用していきます。	
7 愛好者の定着に向けた古典芸能に触れる際や活動にあたってのサポート・相談体制を整え、継続的に技術を研鑽できる機会の提供	■横浜能楽堂主催ワークショップの修了者が継続的な稽古を支援するため、施設利用料の減免制度「応援割」の実施	実施	実施	-		「おとな狂言WS」及び「3日でマスター！仕舞編」参加者に応援割のチラシで周知を行いました。		
							【成果】 7件/12回の利用がありました。 【課題】 発表会前の自主稽古での利用促進にもつなげられるよう、周知します。	

2 能、狂言その他の古典芸能の振興・発展	1 本舞台・第二舞台を活用した公演等の開催	<input type="checkbox"/> 施設見学会付の和のワークショップ開催	2講座4回以上	8講座18回	A	9/18 気軽に能楽！仕舞編「仕舞鑑賞・体験と横浜能楽堂見学」(3回) 10/24 横浜能楽堂芸術監督による能楽入門講座(2回) 11/2、11、18、20 気軽に能楽！仕舞編「3日でマスター！仕舞ワークショップと発表会」(1回) 11/13 能楽師(狂言方)が案内する横浜能楽堂とワークショップ「太郎冠者、あれこれ！」(3回) 12/10 日本画(板絵)体験と横浜能楽堂見学(2回) 12/18 ミニ門松づくりと横浜能楽堂見学(2回) 1/23日本全国能楽キャラバン事前講座・横浜能楽堂見学(見学・体験2回、仕舞鑑賞2回) 2/8、14、24 おとな狂言ワークショップ(1回)	【成果】 新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、全ての催しを開催し、全ての回を実施することができました。多様な内容を実施することにより、幅広い層に向けて横浜能楽堂への興味・関心を喚起することができました。 「3日でマスター！仕舞ワークショップと発表会」、おとな狂言ワークショップからは稽古の会への入会もありました。自主稽古会がより一層活気づき能楽愛好者の拡大につながりました。 【課題】 企画内容がマンネリ化しないように更新し、新たな参加者を開拓する必要があります。より多くの参加者が公演鑑賞者としても来館してくれるようなアプローチも必要です。
		<input type="checkbox"/> 申込率	80%	98%	A	定員合計292人に対し、申込合計287人でした。	
		<input type="checkbox"/> 参加人数	16人/回	18人/回	A	参加者合計は258人でした。	
	2 能・狂言等の継承性と創造性のバランスに配慮しつつ、横浜能楽堂独自の創造的な公演や古典芸能の多彩な公演の実施	企画公演「東次郎 家伝十二番」結び	5月29日	5月29日		平成31年度の企画公演の締めくくりとして実施しました。	
		<input type="checkbox"/> 券売率 実売数/販売席数	75%	100%	-		
		<input type="checkbox"/> 入場者数	365人/回	231人	-	感染症対策ため、公演で座席数を制限して開催しました	
		特別公演	10月17日	10月17日		狂言「二千石」(大蔵流)善竹彌五郎、能「井筒 物着」(宝生流)宝生和英を上演しました。	
		<input type="checkbox"/> 券売率 実売数/販売席数	75%	65%	-		
		<input type="checkbox"/> 入場者数	365人/回	279人/回	-	チケットの発売時期が緊急事態宣言発令時期と重なったこともあり、集客が目標を下回りました。	
	3 能楽等の鑑賞者を広げ、愛好者の定着を図るため、能及び狂言等の基本知識や曲の見どころ・背景などを分かりやすく伝える等の創意工夫を凝らした公演の定期開催	普及公演(鑑賞サポート付)	2回	2回	B	令和3年11月21日、令和4年2月26日に実施。	
		<input type="checkbox"/> 券売率 実売数/販売席数	65%	79%	A	11/21:券売率70.1%、入場者数299人 2/26:券売率87.6%、入場者数359人	
		<input type="checkbox"/> 入場者数	315人/回	329人/回	B		
普及公演「眠くならずに楽しめる能の名曲」		12月11日	12月11日		いずれも「鬼」が登場する能「紅葉狩」と狂言「節分」を取り上げ、能楽初心者向けの解説付きで上演しました。		
<input type="checkbox"/> 券売率 実売数/販売席数		70%	100%	A	目標を上回りました。		
<input type="checkbox"/> 入場者数		340人	455人	A	目標を上回りました。		
4 文化専門施設として蓄積した高度かつ専門的なノウハウを発揮し、横浜や横浜能楽堂ならではの発信性ある魅力的な公演・事業等の実施	企画公演 琉球舞踊公演	3月下旬	公演中止	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。		
	<input type="checkbox"/> 券売率 実売数/販売席数	75%					
	<input type="checkbox"/> 入場者数	365人/回					
					【成果】 【課題】		

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ文化事業目標2	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価	
3 能楽堂自体の魅力の発信	5 1貸館営業、広報営業担当の人員配置 2能舞台の文化的価値や日本の伝統文化の発信、おもてなしの拠点となる文化プログラムやユニークベニュー等の企画、多言語対応を含む受入を行うことによる、横浜や横浜能楽堂の魅力や認知度の向上 3観光・宿泊プラン、国際会議等、MICE と連携し、アフターコンベンション等への施設提供	□MICE関連展示会等視察	1回以上	1回	12/8YCVB主催ユニバーサルツーリズム研修に参加しまし	【成果】 前年度に引き続き、来館促進(貸館促進)、広報営業担当職員を配置し発信力の強化を図りました。 千葉県立中央博物館「春の展示 苔松苔梅-春を寿ぐ うめのきごけ-」(令和4.1/8~5/8)に、本舞台鏡板の写真を提供した他、能楽師の紹介や広報協力を行ったことで、あらたな館の周知機会となりました。 【課題】 企画内容がマンネリ化しないように更新し、新たに参加者を開拓する必要があります。より多くの参加者に将来の公演鑑賞者として再度来館していただけるようなアプローチを検討します。	【評価できる点】 ・高いニーズのある、日本文化体験や和のワークショップなどを積極的に情報発信し、参加申し込みに繋げていることを評価します。 ・電話やメール、施設内での接客やSNSでの発信などの多言語対応を確認しました。 ・「横浜能」や「横浜かもんやま能」といった、横浜市内の能楽愛好者団体や西区役所等との連携を確認しました。また、開館25周年の特別施設見学会やオープンデーなど地域の方々の来館につながる取組を評価します。 ・近隣施設や地域の団体と連携し事業の協力や情報共有、SNSでの情報発信等、積極的にやっていることが確認できました。 ・公演アーカイブの充実を確認しました。	【更なる取組を期待する点】 ・近隣施設や地域の団体との連携を引き続き行い、発信力を強化することや、事業展開の拡大を期待します。 ・インターネット動画配信について、主催公演等のアーカイブは継続的に取組むとともに、能楽に触れたことのない方々に興味を持ってもらえる工夫を求めます。 ・WEBページのアクセス数が減少しています。原因を検証し対策を求めます。
		■提案可能な日本文化体験プログラムの再検討	実施	実施	横浜能楽堂芸術監督による能楽入門講座 能楽師(狂言方)が案内する横浜能楽堂とワークショップ「太郎冠者、あれこれ！」			
		■提案可能な公演鑑賞パッケージの再検討	実施	実施	能楽師の仕舞実演付き施設見学会を開催しました。			
		□公演または文化体験プログラムのリリース	1本以上	8本	A 文化体験プログラムの催しを開催しました。 9/18 気軽に能楽！仕舞編「仕舞鑑賞・体験と横浜能楽堂見学」 10/24 横浜能楽堂芸術監督による能楽入門講座 11/2、11、18、20 気軽に能楽！仕舞編 「3日でマスター！仕舞ワークショップと発表会」 11/13 能楽師(狂言方)が案内する横浜能楽堂とワークショップ「太郎冠者、あれこれ！」 12/10 日本画(板絵)体験と横浜能楽堂見学 12/18 ミニ門松づくりと横浜能楽堂見学 1/23日本全国能楽キャラバン事前講座・横浜能楽堂見学(見学・体験2回、仕舞鑑賞2回) 2/8、14、24 おとな狂言ワークショップ			
		□施設見学会付 和のワークショップ開催	2講座4回以上	2講座4回	B 12/10 日本画(板絵)体験と横浜能楽堂見学(2回) 12/18 ミニ門松づくりと横浜能楽堂見学(2回)			
		□日本文化を紹介する和のワークショップの開催【再掲】	2講座4回以上	8講座18回	A 9/18 気軽に能楽！仕舞編「仕舞鑑賞・体験と横浜能楽堂見学」(3回) 10/24 横浜能楽堂芸術監督による能楽入門講座(2回) 11/2、11、18、20 気軽に能楽！仕舞編 「3日でマスター！仕舞ワークショップと発表会」(1回) 11/13 能楽師(狂言方)が案内する横浜能楽堂とワークショップ「太郎冠者、あれこれ！」(3回) 12/10 日本画(板絵)体験と横浜能楽堂見学(2回) 12/18 ミニ門松づくりと横浜能楽堂見学(2回) 1/23日本全国能楽キャラバン事前講座・横浜能楽堂見学(見学・体験2回、仕舞鑑賞2回) 2/8、14、24 おとな狂言ワークショップ(1回)			
		□申込率【再掲】	80%	103%	A 定員合計332人に対し、申込合計342人でした。【再掲】			
		□参加人数【再掲】	16人/回	17人/回	A 参加者合計は302人でした。【再掲】			
		■英語接客が可能なスタッフは「ENGLISH OK！」バッヂ着用	実施	実施	- 実施しました。			
		■その他言語で接客が可能なスタッフは「◎ OK！」バッヂ着用	実施	実施	- ポルトガル語で実施しました。			
■能・狂言の英文解説をすべての演目で用意	実施	実施	- 実施しました。					
■インターネットチケットサイトの英語版提供	実施	実施	- 実施しました。					
(人員配置については、Ⅱ 3 11のとおり)								

4 能楽等に関する地域等との連携事業	6	<p>1地域の文化拠点としての役割や期待を踏まえた地域、地元企業等との連携、能楽等の振興に資する活動の実施</p> <p>2能楽師を中心とした演者、能楽等の団体、愛好者の団体等との幅広いネットワークの形成</p> <p>3生徒学生の職場訪問・職業体験やインターンシップ等の受入、地域と連携した愛好者や人材の育成支援</p> <p>4近隣小学校への能、狂言の学習サポート</p> <p>5地域住民への公演告知等による能楽堂や古典芸能に触れる機会の提供</p> <p>6施設見学会の開催</p> <p>7地域の実演家・企業・団体等と連携した能の公演の開催</p> <p>8近隣団体との協働事業への参加、近隣施設との協力・連携</p>	第68回横浜能(横浜能楽連盟との共催)	6月5日	6月5日	横浜能楽連盟と共催。狂言「見物左衛門」能「巴」を上演しました。	<p>【成果】</p> <p>横浜市内の能楽愛好者団体「横浜能楽連盟」との共催事業「第68回 横浜能」を開催し、多くの観客を集めました。また西区役所ほか主催の「第36回横浜かもんやま能」は完売しました。</p> <p>施設見学会は集客が多かった「横浜能楽堂開館25周年記念『身近に親しむ能楽堂』」の他、「さくらフェスタ」や「日本全国能楽キャラバン！」との連動企画を実施し、より幅広い層に施設を知っていただく機会となりました。</p> <p>8/16にオープンデーを開催し、近隣施設との連携等により様々なプログラムを実現することができ幅広い層の方に参加していただきました。今年新たなプログラムとして実施した。紅葉ヶ丘エリアの5館連携事業では、新型コロナウイルス感染症防止のため、来場人数を限定した見学会や展示、ワークショップを神奈川県立音楽堂と当館で開催しました。5館が連携して活動することで、地域のにぎわい創出や活性化に貢献できました。</p> <p>その他、学校との連携等、年間を通じて地域との連携を行いました。</p> <p>2月より、若葉町ウォーフが開催している「町の井戸端会議」に参加し、あらたな地域連携の可能性を検討を開始しました。</p> <p>【課題】</p> <p>他団体との共催事業については、能楽堂と主催団体の業務分担について明確化する必要があります。今後の展望についても認識を共有する必要があります。</p> <p>学校の施設見学会の周知や外国語でのSNS発信をより強化する必要があります。</p>
			□券売率 実売数/販売席数	70%	93%	-	
			□入場者数	340人	321人	-	
			■中・高校生の職場体験受入	実施	未実施	-	
			□小・中・高校の見学・学習サポート	3校	3校	B	
			□先生のための見学会の案内	1回	1回	B	
			■児童・生徒向けパンフレットの用意	実施	実施	-	
			■「第37回横浜かもんやま能」(ふるさと西区推進委員会、西区役所との共催、事業運営・広報の協力)	10月16日	10月16日	-	
			□施設見学会月1回開催(年間12回以上実施) (うち3回をスペシャル企画として地域のにぎわいに貢献)	年間12回以上実施	17回	A	
			□開館25周年 特別施設見学会	1回	1回	B	
			□施設見学会 参加者数	各回15人以上	15人以上7回 15人未満10回	-	
			□伝統文化一日体験オープンデーの開催	1回	1回	B	
			□近隣住民へのちらし(利用案内含む)配布	年2回	年13回	A	
			■WEBページ、ツイッターの多言語化	実施	実施	-	
			□みなとみらい21・さくらフェスタ2021への参加	1回	4回	B	
■「野毛まちなかキャンパス」実行委員会との協働	実施	実施	-				
■MMcc(みなとみらいコミュニティクラブ)との協働	実施	実施	-				
□西区 町歩き企画への協賛・共催	1回以上	0回	-				
■紅葉ヶ丘エリアの5館連携事業参加	実施	実施	-				
5 情報提供及び渉外、広報・プロモーション活動	7	<p>1施設の紹介</p> <p>2公演、事業の紹介</p> <p>3横浜能楽堂友の会「かもん会」の運営</p> <p>4業務計画書等の公開</p> <p>5マスコミ等を中心とした幅広いプロモーションの実施</p> <p>6能楽関連の情報、資料の開示</p> <p>7公演・講座記録として開館以来の公演等の記録を整理し、「横浜能楽堂アーカイブ」構築の検討</p>	□WEB ページアクセス数 ※新基準による	トップページ 12,000/月 ページビュー 100,000/月	トップページ 10,404/月 ページビュー 48,104/月	C	
			□ツイッターフォロワー数	2,400人	3月末2,791人	A	
			□年間スケジュール印刷部数	年8,000部	年10000部	A	
			□2か月の行事予定「橋がかり」印刷部数	毎月7,000部	毎月6,500部	B	
			□横浜能楽堂友の会「かもん会」会員数	700人	626人	C	
			□広報資料送付先	新聞・雑誌・テレビ等のマスコミ約100	新聞・雑誌・テレビ等のマスコミ約100	B	
			□新聞、雑誌の掲載	年間24本	17件	-	
			□動画による広報実施	2回以上	8回	A	
			■電話やメールでの問い合わせに対して迅速に回答	日本語及び英語に対応	日本語及び英語に対応	-	
			□「横浜能楽堂」アーカイブについて前年度に作成したリストに基づき着手	追加分公開	追加分公開	B	
			6 館内展示及び収蔵品の管理の実施	8	<p>1常設展の開催</p> <p>2特別展の開催</p> <p>3収蔵品の管理</p> <p>4展示の和文・英文表記の充実</p>	□常設展 開催	年2回以上
□常設展 観覧者数	4,500人	5934人				A	
□特別展 開催	1回	1回				B	
□特別展 観覧者数	3,000人	4072人				A	
■収蔵品を適切に管理	実施	実施				-	
■常設展、特別展の英文表記の実施	実施	常設展で実施				-	
□特別展 観覧者数	3,000人	4072人				A	
【成果】	特別展では、開館25周年を記念して、開館から現在までの舞台写真の中から、主な公演の様子や名手たちの舞台姿をパネルにして館内各所に展示し、好評でした。	【課題】	昨年同様、新型コロナウイルス感染症防止対策として、自由見学を行わず、公演日のみ公開となったため、鑑賞者が限定されてしまいました。WEBを利用するなど、展示品の新たな発信手段を模索していきます。				

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価		
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価	
1 利用料金の考え方と具体的な料金設定、支払方法や割引料金・減免等の運用方法の考え方	1 適切な料金設定 2 利用状況に合わせた支払方法 3 条例及び施行規則に基づく減免等の運用	■学校鑑賞会利用における半額減免を導入	実施	実施	-	申請1件、実施1件。	【成果】 減免により学校鑑賞会実施に利用しやすい体制としています。学校見学については、無料とすることで次世代に向けた取り組みにつながりました。 【課題】 今後も周知を行い、能楽及び古典芸能への興味関心を高めます。 【成果】 利用料金収入は令和2年度に比べ回復しましたが、コロナ以前の水準には達しませんでした。そのほかNHK大河ドラマの撮影利用など、一定の収入獲得に繋がりました。 【課題】 利用団体の縮小や弱体化等、次年度以降も新型コロナウイルスによる施設運営への影響は回避できず、長期にわたる影響を懸念しています。休館中を含め利用者を繋ぎ留めておく体制の構築、感染症への臨機応変な対応が必要と考えています。 【成果】 職員の配置時間を柔軟に設定し業務効率の改善に繋がりました。 【課題】 引き続き確実に実施します。	【評価できる点】 ・条例等に基づき、適切に利用料金の設定、減免、運用を行っていることを確認しました。 ・コロナ過で利用料金収入は目標に届きませんでした。昨年度に比べ回復してきていることを確認しました。 ・協賛金等の収入が目標の倍以上あり、事業等への理解など、獲得に向けた取組を評価します。 ・コロナ禍で様々な制限がかかるなか、支出の削減や職員配置など柔軟な対応を確認しました。 【更なる取組を期待する点】 引き続き、コロナ禍における、国の助成金等の支援の獲得について、積極的に取り組むことを期待します。
		■児童、生徒、学生の見学会の全額減免	実施	実施	-	申請4件(3校)、実施4件(3校)。		
		■減免についてのマニュアル作成	実施	実施	-	適切に実施しました。		
2 指定管理料のみに依存しない収入構造	1 自主事業収入・利用料金収入の安定的な確保 2 助成金、寄付金の確実な獲得 3 協賛金収入の獲得 4 利用料金収入の安定的な確保 5 貸館における友の会会報へのちらし封入サービス、主催公演パンフレットへのちらしはさみこみサービス等の提供 6 貸館公演におけるチケット作成代行、販売代行サービス等の提供 7 撮影料金の設定 8 オリジナル商品の開発及び販売 9 事業収支の健全性の基準設定及びそれに基づく適切な計画	□利用料金収入	14,800千円	12,843千円	-	日本芸術文化振興会 9,384千円 文化庁助成事業(ARTS for the future!) 5,100千円 文化庁「文化施設の感染症防止対策事業(補助金)」174千円	【課題】 協賛：株式会社松栄堂20千円(伝統文化一日体験オープンデー)、株式会社山陽印刷20千円(チケット封筒印刷) 寄附：個人5千円、バリアフリー能へ法人2社より計60千円、パイオニアよりボディソニック(聴覚障がい者用)利用の現物協賛 - 4件のチケット販売代行利用がありました。 - 10件の撮影利用がありました。 - 感染症の影響によりショップ営業の目途が立たず、検診を見送りました。 - 事業毎の特性に応じて必要枚数を精査しました。	
		□日本芸術文化振興会等の外部資金獲得	23,000千円	14,658千円	C			
		□協賛金収入の獲得(寄附含む)	50千円	105千円	A			
		■貸館の手引きにより、ちらし封入サービス、チケット作成、販売代行の有料サービスの提供の周知を図る	実施	実施	-			
		■撮影料金の設定	実施	実施	-			
		■オリジナルショップ商品の開発検討	実施	未実施	-			
3 経費削減等効率的運営の努力	1 発注・事務処理、施設・設備管理等の留意による経費削減等効率的運営の努力 2 適切な人材配置及び超過勤務の削減及び職員のワークライフバランスを図ることによる人件費削減の努力	■ちらし作成枚数の精査、不要不急の支出の抑制を行う	実施	実施	-			
		■不急案件の発注の一括化による事務効率化や経費削減に取り組む。	実施	実施	-			
		■業務の効率化に努め、超勤時間のコントロールを行う	実施	実施	-			

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
1						【成果】 【課題】	【評価できる点】 【改善が必要と考えられる点】

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
1						令和3年度は、度重なる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置期間に対応した感染症拡大防止を最優先に施設運営、事業実施を行いました。 施設貸出に関しては、各種対策について利用者の理解を得ながら目標利用率を達成し、コロナ禍の継続を視野に入れた施設運営の地盤を固めることができました。 事業実施については、開館25周年記念として計画した特別公演「三老女」など、客席数が確保できないと開催が困難な企画をやむを得ず翌年度に延期(※完了確認表作成前に決定)し、また琉球舞踊公演は中止するなど、コロナ禍に対応した計画変更を行いました。 また、新たな生活様式の要請という状況下、オンラインを活用した能楽の普及や能楽堂の魅力を伝える取組みを工夫しました。オンラインでの能楽講座を実施したほか、出演者インタビューや能楽堂スタッフによる初心者向け解説を制作・公開するなど、公演の記録動画以外のコンテンツの充実をはかりました。 次年度からは大規模改修に伴う移転作業及び休館中の貸出代替施設の運営、休館を迎える令和5年度・休館中の事業計画や各種プロモーションについて取り組めます。	令和元年度から続く、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、柔軟に対応し、指定管理者の業務の基準や目標達成に向けて取組を継続して実施したことを評価します。 事業に関しては、横浜能楽堂ならではの企画、和体験などの高いニーズに応える取組、障害の有無にかかわらずあらゆる方が能楽を楽しむことのできる取組や多言語での対応、次世代育成など、能楽等のすそ野の拡大に繋がる取組を評価します。 公演アーカイブの映像配信の充実や、様々な理由で能楽堂に足を運ぶことが難しい方たちに向けたバーチャル見学会などの取組を評価します。 引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしっかりと講じたうえで、安心・安全な運営を行い、利用率の向上に努めてください。 施設管理においては、業務の基準等の通り、実施がされていることを確認しました。令和6年1月からの大規模改修を見据えた小破修繕の計画や、日常的に適切な管理を行うとともに、指定管理者本部や市の情報共有を徹底することにより、文化財の保護や施設の長寿命化に向けて寄与する取組の積極的な実施を期待します。 長期的に施設利用率を高めるための取組の検討を、引き続き、進めるとともに、大規模改修に伴う休館中の古典芸能の普及や施設利用者の方との関係継続等、再開館後を見据えた施設利用促進についても検討を始めてください。